

26P-am02

バングラデシュ産薬用植物に関する研究 (5) — センダン科植物 *Xylocarpus mekongensis* 樹皮の成分研究 —

○松澤 和樹¹, 田中 直伸¹, Fakhuruddin Ali AHMED², 柏田 良樹¹ (¹徳島大院薬, ²ジャハンギナガル大生物科学)

【目的】センダン科 *Xylocarpus* 属植物はマングローブ植物の一種であり、これまでに殺虫作用や、抗マラリア作用、抗アレルギー作用等を示すリモノイドが数多く単離・報告されている。当研究室では、バングラデシュ産植物の含有成分に関する研究を行っており、今回その一環として、バングラデシュ産 *Xylocarpus mekongensis* の成分研究を行った。

【方法・結果】*X. mekongensis* の樹皮 (2.2 kg) から得た MeOH エキス (742 g) を EtOAc と H₂O で分配後、EtOAc 可溶部を CHCl₃ と 50% MeOH aq. で分配した。この CHCl₃ 可溶部 (34 g) ならびに 50% MeOH aq. 可溶部 (154 g) をそれぞれ各種クロマトグラフィーで繰り返し分離し、6 種の新規リモノイド (**1-6**) と 7 種の既知リモノイドを単離した。これらの構造を、各種スペクトルデータの詳細な解析により決定した。化合物 **1** は mexicanolide 型、化合物 **2-6** は phragmalin 型の新規リモノイドである。

